

## 諮問案に対する審議内容及び意見書の内容について

項目	計画案 該当頁	審議会 (平成 26 年度第 3 回審議会)	意見書
全般的な事項について (表記その他)		<ul style="list-style-type: none"> <li>区域施策編に括弧をつける</li> <li>都市公園面積の割合に注釈を付ける(分母, 分子)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>千トンを千 t に換える</li> </ul>
<b>第 1 章 計画策定の背景等</b>			
<b>第 2 章 計画の基本的事項</b>			
2-1 計画の基本的事項 (1) 目的	P. 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の目的が温室効果ガスの排出抑制でなく、最終的に温暖化の防止であればそのことを明示すべき</li> <li>二酸化炭素吸収源対策の追加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的、目標の明示</li> <li>吸収源対策の追加</li> </ul>
(2) 期間			
(3) 将来像	P. 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素社会という言葉はわかりにくい</li> <li>計画の対象範囲と理念を明確に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素社会という言葉を温暖化対策に置き換えてはどうか</li> </ul>
(4) 基本目標			
2-2 市川市の地域概要			
<b>第 3 章 温室効果ガス排出状況</b>			
3-1 温室効果ガス 総排出量の状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>概要版のグラフの軸の単位を適切に修正すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフの凡例、軸単位の修正</li> <li>2013 年度実績にデータに刷新</li> </ul>
3-2 削減対象とする 温室効果ガス			
3-3 二酸化炭素排出量 の状況			
<b>第 4 章 二酸化炭素の削減目標</b>			
4-1 二酸化炭素排出量 の将来予測			
4-2 削減目標の設定	P. 51 ～P. 53	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人当たり二酸化炭素排出量をわかりやすく表現すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バックキャストिंग 2050 年目標を最初に 2030 目標の追加</li> </ul>
<b>第 5 章 目標達成に向けた取組</b>			
5-1 施策の体系	P. 57～	<ul style="list-style-type: none"> <li>実効目標と努力目標の区分</li> </ul>	
5-2 各主体の役割			

5-3 低炭素なエネルギー対策の推進	P. 57 ～P. 58		<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー、まちづくり分野の目標をもっとはっきり掲げる</li> <li>・普及啓発の指標は入れない</li> <li>・再生可能エネルギーの対象を広く(地中熱、下水熱、太陽熱、河川熱、海水熱、工場廃熱)</li> <li>・市による電気事業者の育成</li> <li>・市が電気事業者になる</li> <li>・自立型、省エネ・創エネ住宅施策</li> </ul>
5-4 低炭素なまちづくりの推進 (1) 緑地の保全及び都市緑化の推進  (2) 交通対策の推進  (3) 循環型社会の推進の促進	P. 62 ～P. 63  P. 64 ～P. 65  P. 66 ～P. 67	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国産木材の利用促進</li> <li>・市民が貢献できる緑化推進に関する取組みの紹介や環境学習</li> <li>・農家やみどり会への補助</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産、国産木材の利用促進</li> <li>・農地、森林の保全対策の推進</li> <li>・緑を増やすインセンティブの導入</li> <li>・道路拡幅、自転車道、バス、LRT</li> <li>・循環型社会に、物流、交通、人、金も含めていく</li> </ul>
5-5 低炭素なエネルギー対策とまちづくりを推進する人づくり  (1) 市民・事業者との協働の推進  (2) 環境学習の推進・環境情報の提供・実践行動の促進	P. 68  P. 70	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での環境学習の推進</li> <li>・エコライフと家計節減の情報提供</li> <li>・地産地消の定義、範囲を明確に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市川モールのようなものをつくってはどうか。</li> </ul>
5-6 地球温暖化に対する適応策の推進	P. 72	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内生物多様性モニタリング調査の具体的内容を示してほしい</li> <li>・生物多様性モニタリングに水産食品を加えること</li> </ul>	
5-7 地球温暖化対策がもたらすコベネフィット			
5-8 中・長期的な課題の検討			
<b>第6章 計画の推進方策</b>			
6-1 計画の推進体制	P. 75 ～P. 76	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境調整会議の構成委員の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境審議会が進捗評価を行う</li> <li>・第三者機関によるチェック</li> <li>・トップダウン・庁内調整をしない体制作り</li> <li>・確認・評価・改善の仕組み</li> </ul>
6-2 情報収集と提供			
6-3 計画の推進	P. 77		<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の知恵と活力の利用</li> </ul>